

学校長 小林 忠 樹

記述者 職名（教諭 教務主任）

小澤 正士

学校教育目標 「課題意識をもって学び、心身共に健康で、人間性豊かな児童の育成」

学校経営方針

- ・教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- ・児童一人ひとりの自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- ・研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- ・特色ある学校づくりに努める。
- ・安全、安心な学校づくりに努める。

I 全体評価

○自己評価は(A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない)の4段階で実施した結果、次のような点に特徴が見られた。本校の自己評価結果について、総合的に見てみるとほとんどの質問内容（評価指標）で、90%以上の肯定的な回答が大勢を占めている。その判定の根拠となる具体的な評価指標は、

「学校教育目標・学校経営に関して」は、①②③④⑤⑥（A：B 100%）、

「学校運営について」は、①②③④⑤⑥⑦⑧（A：B 100%）、

「学習指導について」は、①②③④⑤⑥⑦⑧⑨（A：B 100%）、

「生徒指導について」は、①②④⑤⑥⑦（A：B 100%）、

「地域との連携について」は、①④⑥⑧⑨（A：B 100%）、

「学校の特色について」は、①②③④⑤（A：B 100%）となっている。

○今回は保護者のアンケートを実施した。その結果、「学習指導」「生徒指導」「地域との連携」等について教職員・保護者・児童との相関関係が以下のグラフの様に見れている。その項目については、特に教育改善を行うことや保護者の理解が得られるような取り組みを実施していくことが必要である。

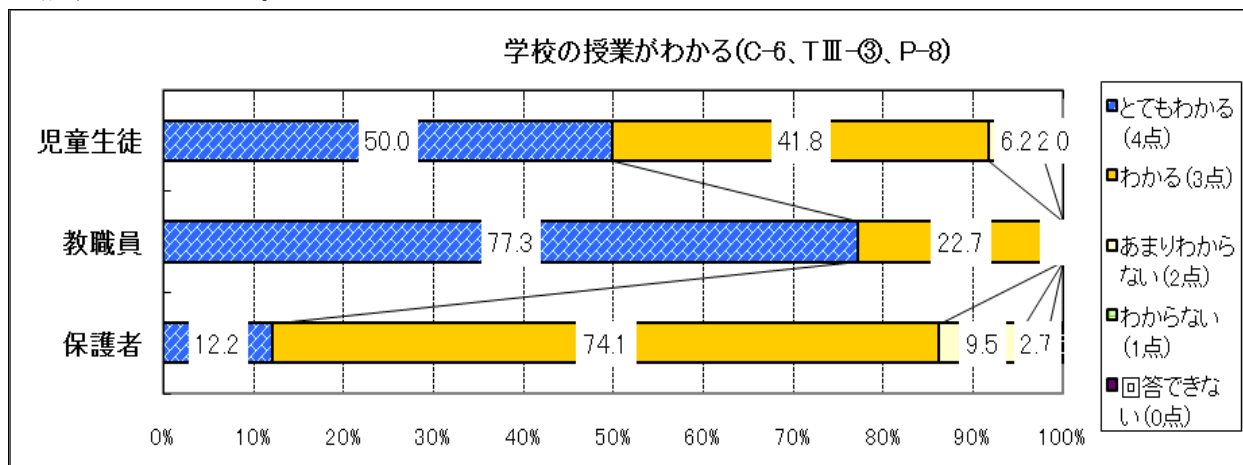
II 各項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

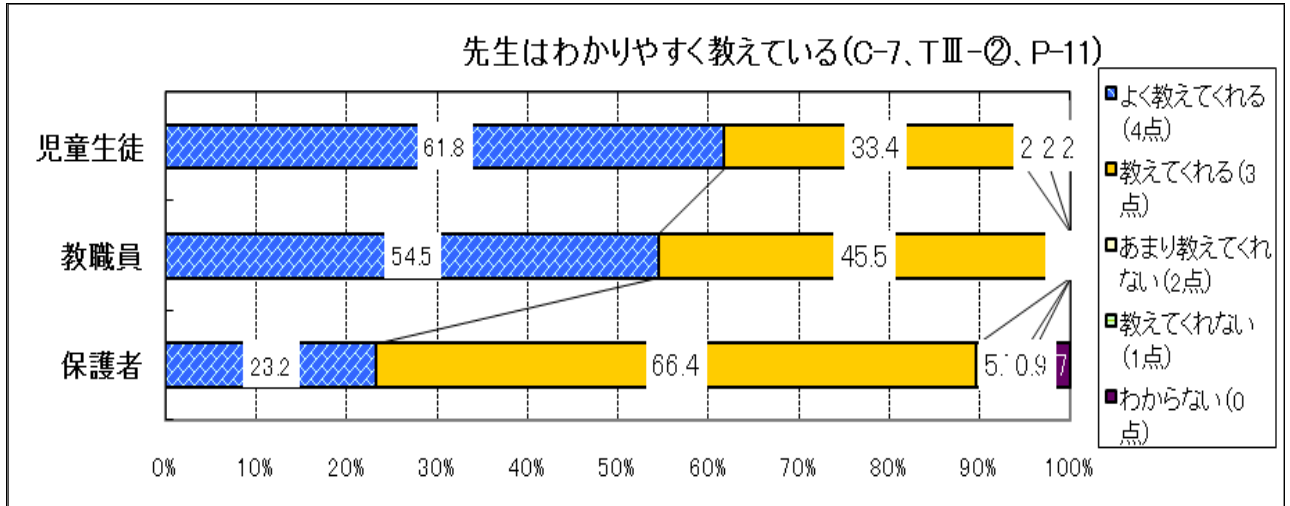
1 「学校教育目標・学校経営について」 2 「学校運営について」

達成状況 ・学校教育目標について、目標設定の適否、目標達成に向けた職員の関心や意欲に関しては「達成できている状況」との意見が大勢を占めている。また、教職員の教育活動への取り組みについても、協力して一生懸命努めている状況である。

3 「学習指導について」

達成状況 ・学習指導について、③基礎・基本の定着を図る授業、⑤評価規準、評価方法を明確にした授業、⑦質問や発言が出てくる授業に心掛けて指導を行っているが、保護者の受け止め方とに相違がある結果となっている。

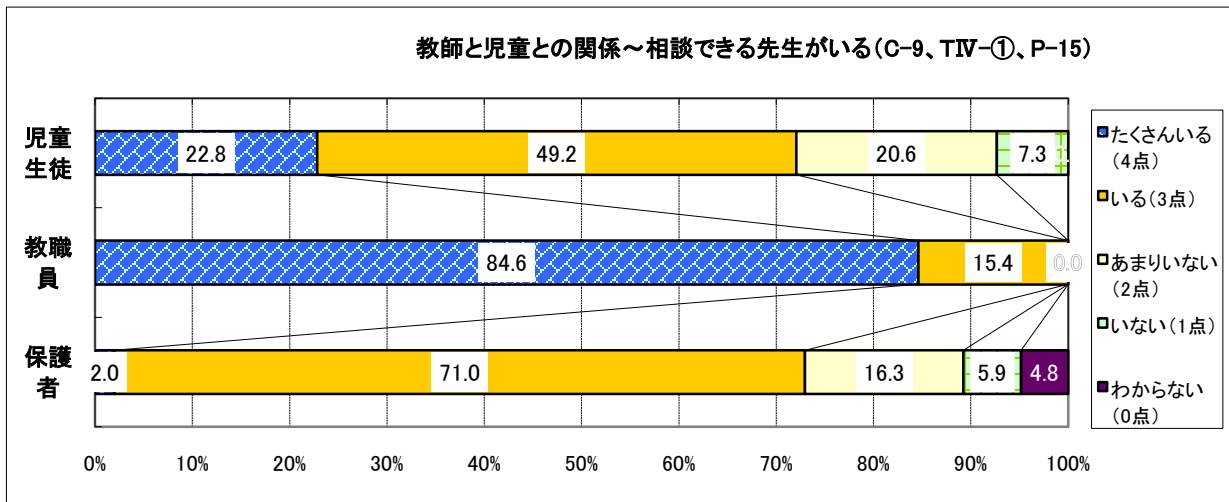




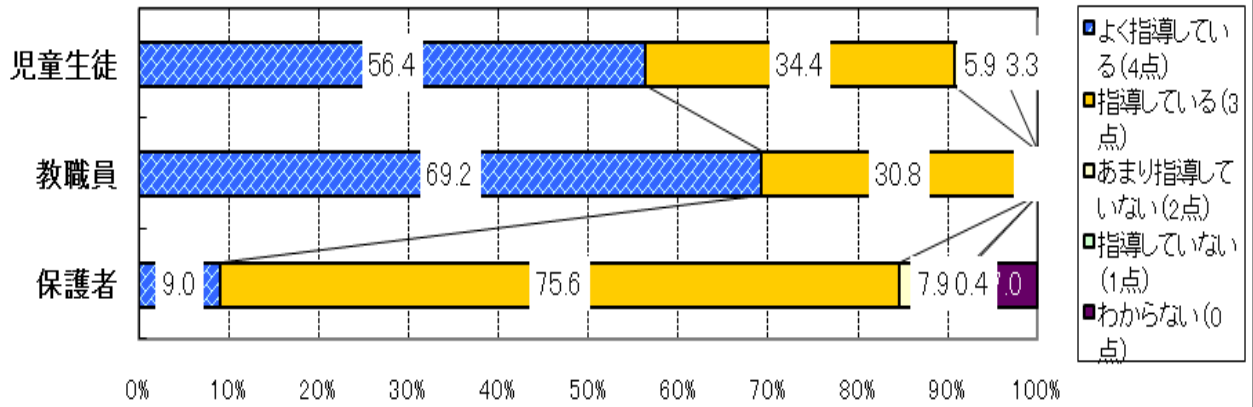
- 改善策
- ・「各授業で課題を明確にして学ばせる」ことを徹底し、学習指導に取り組んでいく。
  - ・教材研究を行い、見通しをもって、授業計画を立て、意欲喚起につながる学習指導を進めていく。
  - ・個々の児童を大切にしたい授業を展開し、基礎学力の定着に向けた指導を工夫していく。
  - ・家庭へも学習計画や学習の様子を学年だよりや学級通信で知らせるなど保護者の関心や協力が図れるような取り組みを進めていく。
  - ・生活科、総合的な学習、道徳など保護者の協力を生かした授業を仕組んでいく。
  - ・校内研究の成果を授業に取り入れて、評価と指導の一体化を図る授業を展開していく。

#### 4 「生徒指導について」

- 達成状況
- ・全職員が、児童の豊かな人間性をはぐくむ生徒指導に取り組み、児童とのコミュニケーションを図ることに努めているが、児童や保護者においては、友達同士・教師等に対してコミュニケーションが図れない状況も現れているため、両者の関係が良好な方向へ向くように努める必要がある。
  - ・規範意識の高揚、きまりや約束を守る指導について、教師と保護者の意識の違いが現れているので、保護者の思い等を十分にくみ取る必要がある。



規範意識の高揚～きまりや約束を守るように指導している(C-20、TIV-②、P-6)

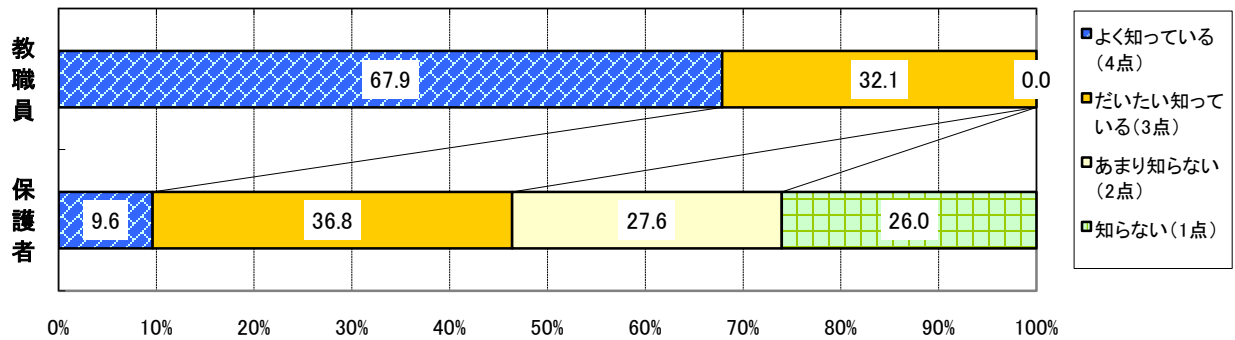


- 改善策
- ・教師と児童及び児童相互の人間関係を深める取り組みに心掛け、安心して安全な居心地のいい学級づくりを推進していく。
  - ・保護者等の要望をくみ取る中で、児童1人1人の個性や長所を認めるなど個に応じた指導方法の工夫を図っていく。
  - ・家庭や地域社会と連携し、基本的な生活習慣や社会生活上のきまりが身に付くよう体験活動的な道徳的实践活動の推進を図っていく。

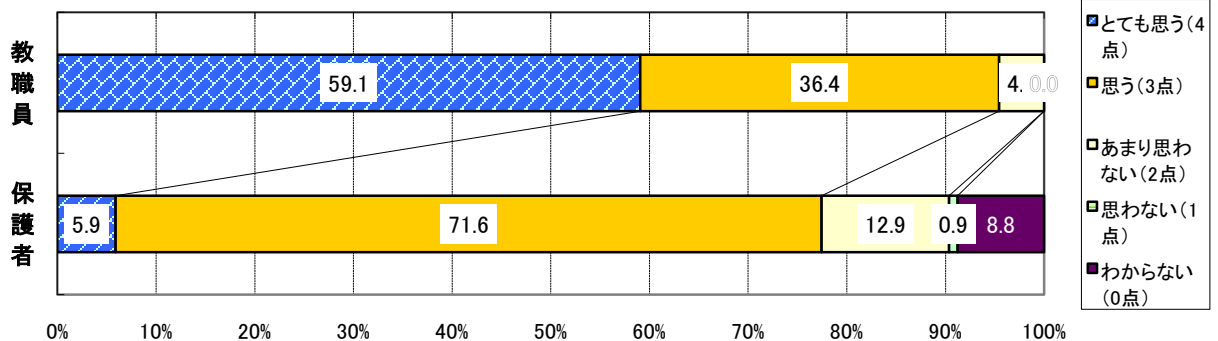
5 「地域との連携について」

- 達成状況
- ・学校は「学校評議員」や「協力者会議」の設置を行うなど、地域、保護者と連携協力を図りながら教育活動を進め関係は良好である。しかし、学校評議員制度や保護者・地域の声に耳を傾けているか等について、理解が得られてない状況であるため今後の方策が必要である。

学校評議員制度について(TV-⑧、P-19)



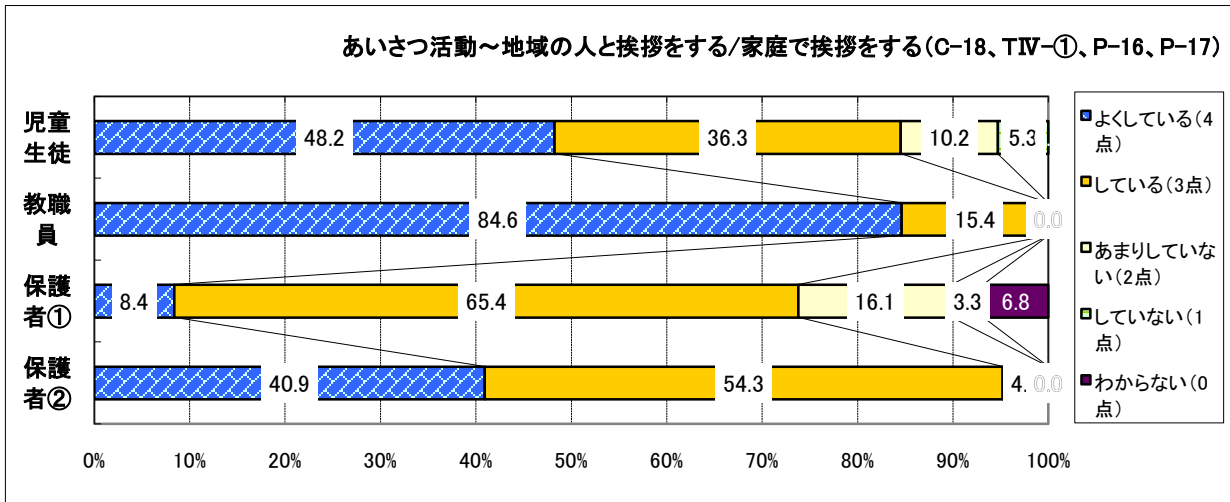
保護者・地域の声に耳を傾けている(TV-②、P-4)



- 改善策
- ・新しい学校教育のあり方である学校評議員制度や学校関係者評価委員会、本校の特色である協力者会議を定期的で開催し、保護者や地域の要望が学校に届くシステムを工夫していく。
  - ・学校開放日を設定して、保護者のみならず地域住民にも普段の児童の様子を見てもらう機会の情報提供を計画的に行っていく。
  - ・教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導や保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞く機会など情報の収集に努めていく。

6 「学校の特徴について」

- 達成状況
- ・学校の特徴について、「挨拶運動」「学校開放日」「読書活動」「児童会活動」など、本校が力を注いでいる教育活動の目標達成に向けた職員の関心や意欲に関しては、「達成できている状況」との意見が大勢を占めている。しかし、あいさつについては、保護者のアンケートやPTA生活指導部会から地域でのあいさつに問題があるとの指摘を受けている。



- 改善策
- ・学級指導において、あいさつの徹底を図っていく。
  - ・地区別下校の際に、集団登校時のあいさつの様子について反省させる機会を設定していく。
  - ・PTA生活指導部の反省結果を基にして、PTA活動としても保護者自らがあいさつ運動の推進に努めてもらうよう要請していく。

III まとめ

〈成果〉

- ・学校経営方針に対する教職員内での共通理解、経営方針に対する関心や意欲、経営実践についての意識を高め問題点の改善へとつながった。
- ・職員自己評価、保護者、児童アンケート調査では、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携等についての問題点を把握すると共に教師と保護者の意識の相違点を掴むことができ、今後の改善を図る良い資料となった。
- ・学校評価を実施することにより、教職員が自信を持って教育活動を行う自覚が生まれてきた。

〈課題〉

- ・学校評価（職員自己評価、保護者、児童アンケート調査）の結果を今後の教育活動へ反映させること。
- ・地域や保護者とのより良い連携を図り、地域・家庭・学校の教育力を高めていくこと。